

プレイ人数: 2~7人

対称年齢: 12歳以上

所要時間: 45分

コンテンツ: 豆カード x 154

畑カード x 7

ルール x 1

ゲームの概要

各プレイヤーは2~3個の畑で豆を育て、できるだけ高く出荷することを目指します。同じ種類の豆を沢山集めれば集めるほど、出荷金額も高くなります。勝者は豆を植え、収穫し、出荷して最終的に最もお金を稼いだプレイヤーです。うっかりするとプレイヤーは豆が最低金額に届く前に収穫するはめになり、出荷したのにお金にならないことも起こりえます。

カードの情報

・豆カード

11種類の豆カードがあります。それぞれの豆カードの枚数は一緒ではありません。その種類のカードが何枚存在するかは、豆の絵、豆の名前と共にカードに記載されています。



豆メーター(beanometer)は全ての豆カードの下部に記載されています。これはこの種類の豆を何枚出荷すると金貨がいくつもらえるか、を表しています。数字は金貨を1, 2, 3, 4枚獲得するのに必要な豆カードの枚数を表します。



例 1: 上のカードの場合、1~2枚の豆を出荷した場合、プレイヤーは金貨を一枚ももらえません。3~4枚の豆を出荷した場合、プレイヤーは1枚の金貨を得ます。5~6枚の豆を出荷した場合、プレイヤーは2枚の金貨を得ます。7枚の豆を出荷した場合、プレイヤーは3枚の金貨を得ます。8枚以上の豆を出荷した場合、プレイヤーは4枚の金貨を得ます。



豆カードを裏返すと金貨になります。

それぞれの畑は一度に一つの種類の豆しか育てることができません。何も植えてない畑には好きな豆カードを植えることができます。

各プレイヤーは5枚の豆カードを手札に持ってゲームをスタートします。



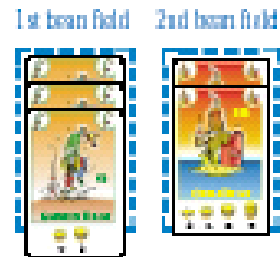
一番手前のカードが1番目のカードになります。

・金貨

プレイヤーが豆を出荷した場合、プレイヤーは出荷した豆を裏返して獲得した分の金貨を得ます。

・豆畑

各プレイヤーの前のスペースがそれぞれの豆農場です。各プレイヤーはゲームスタート時、2個の豆畑を所有しています。ひとつの畑には一種類の豆しか栽培することはできません。同じ種類の豆であれば、何枚でも重ねて栽培することが可能です。



ゲームの準備

3番目の豆畑カードは箱にしまっておきます。最年長のプレイヤーが豆カードをよくきって、各プレイヤーに裏返して5枚ずつ配ります。これが、最初の手持ちカードになります。プレイヤーは配られたカードの順番を変えないように、カードを手を持ちます。

重要：プレイヤーは絶対にカードの順番を並べ替えてはいけません。したがって、種類ごとにカードをそろえたりしてはいけません。プレイヤーは配られた順番(手持ちカードの手前から)に豆カードを植える必要があります。豆カードを新しく山からひく場合は、1枚ずつひき、手持ちカードの一番後ろにいれてから次をひきます。

各プレイヤーに5枚ずつ配って残った豆カードを裏返してテーブル中央に置いて山にします。山の隣は捨てカードを置くスペースとして空けておきます。カードを配ったプレイヤーの左隣のプレイヤーからゲームはスタートします。

ゲームのプレイ

手番のプレイヤーは以下の行動を行います。

- ステップ 1. 豆カードの栽培(畑に植える)
- ステップ 2. 豆カードをひき、交渉
- ステップ 3. 交渉したカードの栽培
- ステップ 4. 手札の補充

ステップ1: 手番のプレイヤーは手札の一番目のカードを豆畑に植えます。もし、望むのならもう一枚の豆カードをさらに豆畑に植えることができます。この場合、2枚のカードは別々の豆畑に植えてもかまいません。

ステップ2: 手番のプレイヤーは山からカードを2枚ひき、表にして並べます。手番のプレイヤーはここでカードを交換したり、あげたりできます。

1. 豆の栽培

手番のプレイヤーは**必ず**1枚目の豆カードを畑に植えなければなりません。もし、その豆カードが既に栽培されているカードと同じ種類だった場合は、そこに重ねて植えることができます。もし、その豆カードが既に栽培されているカードと違う種類だった場合は、空いている畑に植えることができます。ここで、空いている畑がなかった場合、任意の畑に栽培されている豆を全て収穫し、出荷しなければなりません。そうして空になった畑に豆を植えます。

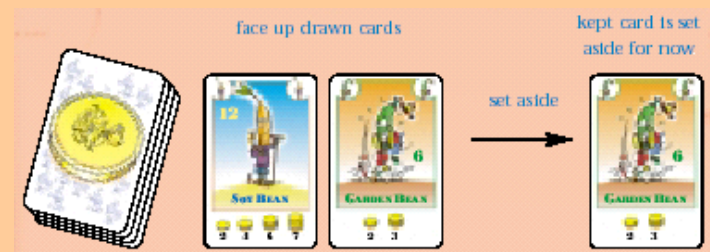
さらに、手番のプレイヤーは望めばもう一枚、豆を植えることができます。(今一番目のカードになったカード)この場合も1枚目のカードと同じルールが適用されます。3枚目のカードを植えることはできません。

もし手札がまっとなかった場合、このステップは飛ばします。

2. 交渉

手番のプレイヤーは山から豆カードを2枚ひいて、全員に見えるように表にして置きます。手番のプレイヤーはこのカードを後で自分が植えるために自分のものにしても良いし、他のプレイヤーと交換もしくはあげることも可能です。この時、プレイヤーは他のプレイヤーにこのカードを欲しくないか?と聞いたり、他のプレイヤーがそのカードが欲しいと言ったりします。

例2:



スティーブは Garden bean と Soy bean をひきました。彼は、Garden bean を自分のものにするにしましたので、脇に置いておきます。そして、彼は残った Soy bean を交換するためにこう言いました「誰か Soy bean を欲しい人いませんか? Red bean と交換してくれたらうれしいんだけど」。

交渉時の注意事項

- ・ カードの交換には必ず手番のプレイヤーが関わってなければなりません。手番でないプレイヤー同士の交換はできません。
- ・ 手番のプレイヤーは表になっている2枚のカード以外にも手札を交換したり、あげたりできます(表になっているカードと同時に交換も可)。

交渉によって手に入れたカードを手札に加えてはいけません。また、交渉によって手に入れたカードをさらに交渉に用いてはいけません。

交渉を行って、手札からカードを出すことにより、植えたくない豆カードを手放すことができます。

例 3:



スティーブは「Red bean と交換するために、表にでている Soy bean と、私の手札の中から Blue bean を出します」と言いました。

- ・ 手番以外のプレイヤーは、自分の手札からのみカードの交換を行います。
- ・ 手番のプレイヤーは、表にした2枚のカードの交渉が終わった後でも、手札の交渉を続けることができます。

重要: 交渉によって手に入れたカードを手札に加えてはいけません。これらのカードは次のステップまで脇に置いておく必要があります。さらに、交渉によって手に入れたカードはさらなる交渉に用いることはできません。プレイヤーは手札の順番を変えることはできませんが、好きな手札を交渉に用いることができます。これを確実にを行うため、交渉が成立してから手札からカードをぬくようにしてください。

・カードの提供

一番望ましいのはカードを交換できることですが、しばしば“持っているよりはあげたほうがマシ”という状況も起こりえます(手札の一番目から豆カードを植えなければならないから)。手番のプレイヤーは表にした2枚のカード、もしくは手札のカードを他のプレイヤーに無償提供することができます。手番でないプレイヤーは手番のプレイヤーとのみ交渉を行う事ができ、その場合自分の手札からカードをだします。また、カードの提供は断ることもできます。したがって、カードの提供を行う場合、まず交渉をし、成立後に初めてカードをいじるようにします。

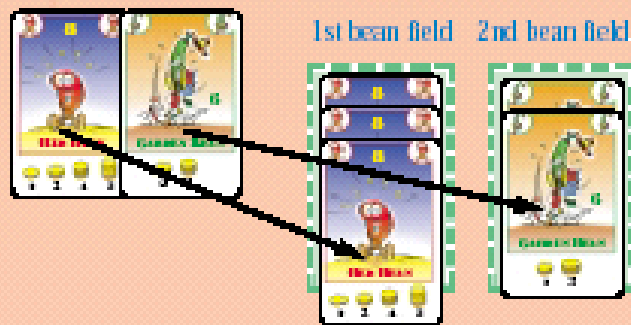
- ・ 表にされた2枚のカードと交渉によって動いたカードは全て次のステップで畑に植えられます。
- ・ 手番のプレイヤーが交渉を行えなくなった時点でこのステップは終了します。

ステップ3: 全てのプレイヤーは前のステップの交渉で手に入れた豆カードを畑に植えます。

3. 交渉したカードの栽培

全てのプレイヤーは前のステップの交渉で手に入れたカードを自分の畑に植えます(手番のプレイヤーは確保しておいたカードも植えます)。植える順番はプレイヤーの任意ですが、必ず全てのカードを植えなければなりません。ここでプレイヤーは畑の豆を1列収穫して出荷しなければならなくなるかもしれません。

例4:



スティーブは Soy bean と Garden bean をめくり、Garden bean は自分の為に確保して、Soy bean と手札の中の blue bean をあわせて Red bean と交換しました。ここで交渉が終了し、彼は Red bean と Garden bean を畑に植えなければならないので、図のように植えました。

もし、プレイヤーが植えなければならない豆カードを所持していて、同じ種類の豆が栽培されている畑も空の畑もない場合、空いている畑を作らなければなりません。この時、プレイヤーは3番目の畑を購入するか、畑に植えられている豆を出荷するか選べます。そして、空いた畑にカードを植えます。

ステップ4: 手番のプレイヤーは山から豆カードを3枚ひき、順番を間違えないように手札に加えます。

4. 手札の補充

手番のプレイヤーは山からカードを3枚ひき、手札に加えます。順番を間違えないように、1枚ずつひき、手札の一番後ろに追加していきます。手札の順番を変えてはいけません。もし、山がなくなった場合には、捨て札を集めてシャッフルし、新たな山として補充します。

手番のプレイヤーがカードを補充し終わったら、手番は左となりの人に移ります。

豆の収穫と出荷

プレイヤーは手番でなくても自分の畑に植えてある豆を収穫して出荷することができます。自分の畑に植えてある豆を出荷する場合、その畑に植えてある全ての豆を収穫しなければなりません。出荷する時は、まず何枚の豆が栽培されているかを数えます。その後、豆カードに書かれている豆メーターを参照し、何枚の金貨を得ることができるか算出します。得られる枚数分の金貨を豆カードを裏返すことによって獲得し、脇に置きます。金貨にしなかった残りのカードは表にして捨て札置き場に置きます。

例 5:



マークは彼の畑に植えてある3枚の Chili bean を収穫して出荷しようとしています。豆メーターによれば、彼は1枚の金貨を得ることができます。彼は Chili bean のうち1枚を裏返して金貨として自分の脇に置き、残りの2枚を捨て札置き場に置きました。

この時、1枚も金貨を得られないことも起こり得ます。

例 6: マークが Chili bean を2枚出荷した場合、マークは1枚も金貨を得ることができません。金貨を1枚得るには最低3枚の Chili bean を出荷する必要があります。

豆を出荷する場合、プレイヤーは2枚以上の豆カードが栽培されている畑を任意に選択して収穫することができます。他に2枚以上の豆を栽培している畑がある場合、1枚しか栽培していない畑を収穫することはできません。全ての畑に1枚しか豆が栽培されていない場合は収穫することができます。

3番目の畑

各プレイヤーはゲーム中に一度だけ、畑を追加して3つにすることができます。これにより、一度に3種類の豆を栽培できるようになります。プレイヤーはいつでも(手番でなくても)、3番目の畑を購入することができます。プレイヤーは自分の金貨置き場の上から3枚を捨て札にし、3番目の畑カードを自分の畑の横に、全員に見えるように配置します。

3番目の畑カード

金貨を3枚未満しか持っていないプレイヤーは購入することができません。借金もしてはいけません。

ゲームの終了と得点集計

山札が3回なくなるとゲームは終了します。もし、ステップ2の間になくなったときは、ステップ3が終了するまでゲームを続けます。表にする2枚のカードが足りない場合は、1枚だけ表にします。もし、ステップ4で3回目の山札枯渇が起こったら、直ちにゲームは終了します。

ゲームが終了したら、手札を置き、現在畑に栽培されている豆カードを出荷します。これらが全て終わった時点で最も金貨を多く所持しているプレイヤーがゲームの勝者です。もし、金貨の数が同じ場合は、手札が多いほうのプレイヤーが勝者となります。

プレイ人数による変更

3人プレイ: Cocoa bean をゲームから取り除き、全員3番目の畑カードを所持した状態からスタート。山札が2回なくなったらゲーム終了。

4～5人プレイ: Coffee bean をゲームから取り除く。

6～7人プレイ: Cocoa bean, Garden bean をゲームから取り除く。最初の手番のプレイヤーは3枚、2番目のプレイヤーは4枚、3番目のプレイヤーは5枚、それ以降は6枚の手札を持ってゲームスタート。ステップ4で各プレイヤーは3枚ではなく4枚カードをひく。3番目の畑カードの値段は金貨2枚。

2人プレイ

2人プレイの場合も基本的なルールは変わらないが以下の点で異なる。

- ・ Garden bean, Cocoa bean をゲームから取り除く。
- ・ プレイヤーは自分の手番にのみ豆を出荷できる。
- ・ 3番目の畑購入時、購入に使用した金貨はゲームから取り除く。
- ・ 山札が一回なくなった時点でゲーム終了。
- ・ さらに以下のように各ステップで変更点がある。

ステップ1の変更点

ステップ3で相手が残した豆カードを自分の畑に植えたり、捨てたりできる。(1番最初の手番は相手のステップ3がないので除外)

ステップ2の変更点

通常通り1枚か2枚の豆カードを手札から畑に植えた後、手札から自由に一枚捨てることができる。

ステップ3の変更点

手番のプレイヤーは山から豆カードを3枚ひいてお互いが見えるように置く。捨て札置き場の一番上のカードがひいたカードの中にあれば、捨て札をとって山からひいたカードの上に重ねる。捨て札の一番上と山からひいたカードが同じカードでなくなるまでそれを繰り返す。手番のプレイヤーは表になっている好きなカードを畑に植えることができる(自分の畑の豆を出荷して植えなおしてもよい)。植えたくないカードはそのまま残してよい(残ったカードは相手のプレイヤーのステップ1で処理)。

ステップ4の変更点

カードを2枚ひく。